熊本県産業技術センター完成

熊本県の企業支援機関である熊本県産業技術センター（熊本市、坂井滋所長、096・368・2101）が、2011年度に新たな一歩を踏み出す。熊本県は10年に「熊本県産業振興ビジョン2011」を策定、県が目指す未来像の構想をまとめた。その中で同センターの機能強化が掲げられており、有機薄膜研究の拠点化など果たすべき役割が大きくなっている。また3月上旬に新本館が完成、研究や技術支援の能力がさらに充実することになった。

即戦力から次世代対応に

熊本県で先導的な役割を果たしている半導体や自動車の関連産業は、世界的な景気回復に後押しされて生産が回復している。しかし国内産業全体と同様、新興国への生産シフトにさらされており、内需依存型産業は依然として厳しい経済環境が続く。

そうした中、県内産業は新たなビジネスモデルへの転換が急務となり、技術力の強化も必要になっている。将来の熊本県経済をリードする次世代産業を立ち上げるための技術シーズ創造も重要だ。同センターの使命は、地域企業のニーズに対応した技術支援であるということに変化はない。ただ求められるものは即戦力から次世代への対応に変化しつつある。

現在の同センターは07年、工業技術センター、食品加工研究所、計量検定所が統合して発足した。11年度の目標は「新たな産業育成を目指した技術交流拠点づくり元年」としている。そして有機薄膜研究に関しては、県外にも参加を求めて事業を進めるとともに、熊本県工業連合会などとの産学官連携を強化する方針だ。

またコスト削減や工程改善など従来の支援に加えて、農業が盛んな地域特性を踏まえた農商工連携を強化する。連携によって商品開発と連動したマーケティング機能の強化やオープンイノベーションを進めるIT化、知的財産戦略分野の企画力強化を進める。特に有機薄膜技術分野は「一丁目一番地」と位置付け、地元産学官で「くまもと有機薄膜技術高度化支援センター」を立ち上げる。産業技術センターは研究機器の利用調整などを行うことで事務局の役割を果たす。

同センターは新棟建設により研究、技術支援機能を充実した。サテライトオフィスは受託研究を行う企業に対して、機密性を確保して試験や実験で得たデータの解析や報告書の作成ができる個室として整備した。また依頼試験に伴うJIS規格などに準じた高度な精密測定を行うため、クリーンルームや電子計測用恒温恒湿室を設けた。

そのほか産学行政交流室や共同研究室、機密性に配慮した技術相談室も確保した。さらに一般来館者の利便性向上に配慮した交流サロンや見学コースもある。交流サロンでは技術支援を行った成果品や県内産業の歴史を紹介しており、発表会などのイベント開催も可能だ。JIS規格関連など専門図書の閲覧もできる。見学コースは研究室ドアに見学窓を設け、研究内容を分かりやすく説明したパネルを掲示している。

環境配慮では屋上緑化や雨水の再利用システム、約10キロワット規模の太陽光発電システムを導入して省エネルギーや資源循環に取り組んでいる。

技術提案力や企画力強化も推進する。企画業務を事務系職員中心から技術系職員による主導に改めるのが推進策の一つ。さらに総合相談窓口制度を充実させて窓口を一本化、担当者主体の相談対応から組織的な相談対応への転換を図る。また業務の実施は各部署が主体的に運営するが、業務のチェックは企画部門が支援する。

試作機能を強化するとともに農商工連携を促進することも新たな取り組みの一つだ。試作機能の必要性は加工食品分野で特に高い。市場が消費者と直結して商品開発サイクルが短いためだ。そこで今回、食品試作室を改修して、小ロットの試作品の試食販売を可能にした。

農商工連携では同センターが持つ工業的ノウハウで農業現場の課題を解決するニーズがあり、ビジネスチャンスになると見ている。そこで農業現場から公募した課題を、企業連携により事業化して解決していく。

人材育成や人材活用に関しては、技術伝承チームによる新人育成やシニア技術アドバイザー、再任用職員の活用などで取り組む考えだ。

熊本県産業技術センター外観

重点成長分野で商品開発、技術力向上を担う

熊本県が10年10月にまとめた、11年―20年までの10年間を期間とした「熊本県産業振興ビジョン2011」は、重点成長分野として①セミコンダクタ②モビリティ③クリーン④フード&ライフ⑤社会・システム―の5テーマを挙げている。工業振興を中心としているが、情報サービス産業や健康サービス産業も対象にしている。

同ビジョンでは各テーマで目指す産業集積を「フォレスト（森）」と名付け、各フォレストで人材育成、企業の高度化、新産業の創出、企業誘致に取り組む。その中で同センターは新産業の創出や、研究開発施策における中核的な役割が期待されている。

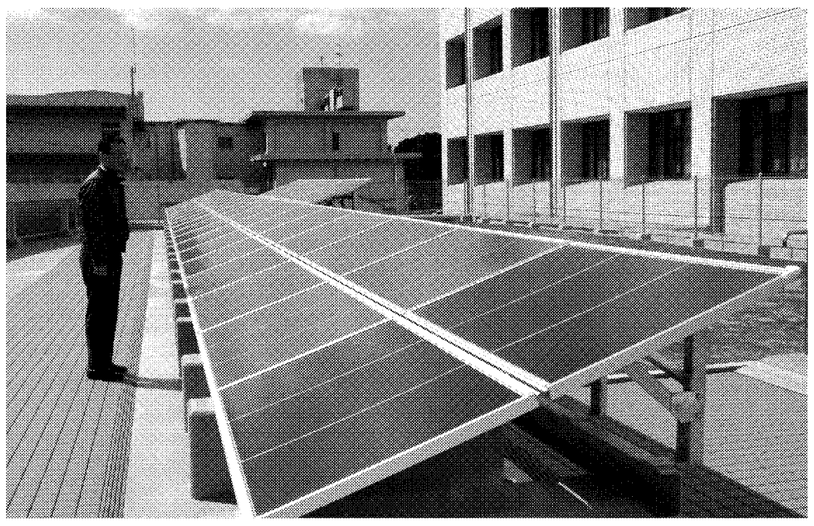
セミコンダクタフォレストは半導体のデバイス、製造・検査装置、材料などが対象。関連企業が集積して日本有数の半導体関連産業拠点を形成している県の強みが生かせる分野だ。同センターは産学官連携による有機薄膜技術高度化支援センターの活用や、太陽光発電分野の振興に取り組む。また導電膜を形成する技術のライブラリー化や、レアメタル（希少金属）製導電膜に代わる膜形成技術の確立などに対する支援を行う。

モビリティフォレストでは自動車、二輪車だけでなく鉄道、造船、航空宇宙分野も含めた産業集積を目指す。自動車、二輪車ではエンジンからモーターへの動力の転換に対応、充電装置の産業化などに力を入れる。同センターは「ユニバーサルビークル」の製品開発を支援するほか、チタン合金やステンレス鋼、マグネシウム合金などの難削材、軽金属材料の加工技術開発に取り組む。

またクリーンフォレストは環境や新エネルギー、省エネルギー分野を対象とする。良質な地下水が豊富な地域の利点を生かした水資源ビジネスの可能性についても検討を行う。同センターは触媒技術や膜分離技術の環境浄化システムへの応用開発などを支援する。

一方フード&ライフフォレストはバイオテクノロジー、医療、食品、健康サービスが対象。農商工連携や医工連携を推進し、機能性食品の開発や特定保健用食品の認定に向けた支援を実施する。センターはキノコ類の機能性を生かした商品開発のほか、みそやしょうゆを発展させた調味料の開発などを支援する。

そして社会・システムフォレストは、社会ニーズに対応したシステム開発に向けてソフトウエア、ネットワーク、セキュリティー、電子制御、機械などさまざまな技術を複合する。組み込みシステム分野の試験研究や、ワイヤレスセンサーネットワーク技術を活用した環境計測システムの研究を行う。防災無線用アンテナの開発や、太陽電池の発電効率化などの取り組みも支援する。



屋上に設置した太陽光発電システム

沿革

熊本県工業技術センター

1922（大正11）年 工業試験場を設置。
1930（昭和 5 ）年 工業試験場廃止。商工奨励館を設置し業務の一部を継承。
1942（昭和17）年 工業指導所を新設。
1947（昭和22）年 工業試験場と改称。
1985（昭和60）年 工業技術センターと改称。

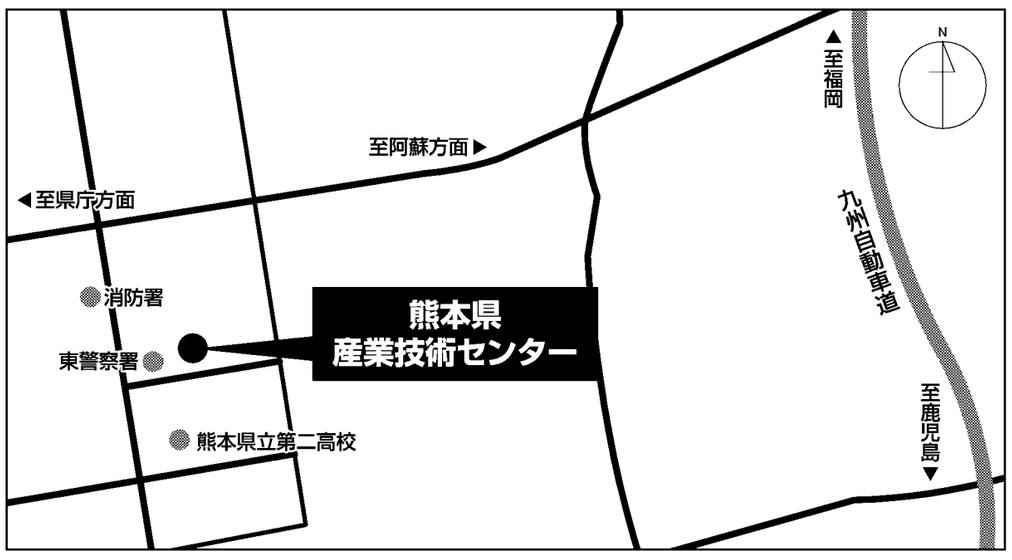
熊本県食品加工研究所

1988（昭和63）年 開設。

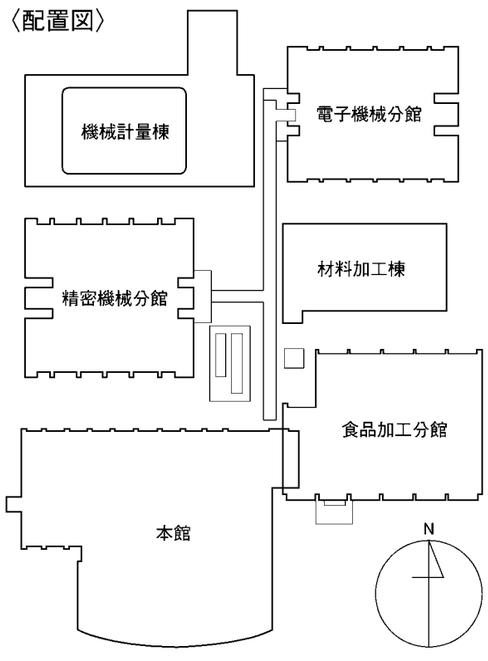
熊本県計量検定所

1875（明治 8 ）年 熊本県内務部勧業課に度量衡掛を置き業務開始。
1893（明治26）年 県庁内に度量衡検定所を設置。
1952（昭和27）年 熊本県計量検定所と改称。

→ **熊本県 産業技術センター**
2007（平成19）年発足。



〈配置図〉



熊本県産業技術センター

〒862-0901　熊本県熊本市東町3-11-38

主な交通手段

■ 飛行機
熊本空港連絡バス（自衛隊経由交通センター行き）で「東町中央」バス停にて下車～徒歩5分

■ 市電
「健軍町」電停で下車～徒歩15分

■ 自動車
益城熊本空港インターチェンジから5分

櫻井精技 株式会社

ISO19001　ISO14001取得済み

MORE SPIRITS & BETTER TECHNOLOGY

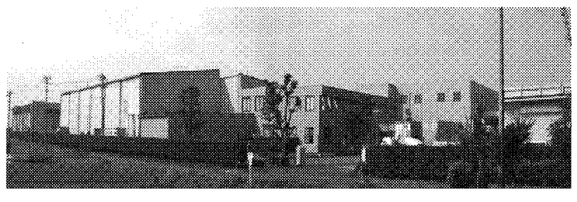
事業内容・主要製品

FA向け自動機のOEM製造
① 実装機
② 光ディスク製造装置
③ 液晶製造装置
④ 外観検査装置

FA向け自動機の設計製作
① 液晶・PDP用検査装置
② 半導体用自動機
③ ディスペンス用自動機
④ リードフレーム用自動機

本社：〒869-4613　熊本県八代市岡町谷川135番地
TEL：0965-39-0911　FAX：0956-39-0912
URL：http://www.sakuraiseigi.co.jp

経営理念

お客様の期待を創造し、期待に応え、信頼を受け続ける仕事をする。
社員が自尊心を保ち、幸せを感じられる会社にする。

全社員が真意に正面から弊社の製造品である自動機と向き合い、
豊富な習熟と熱意ある努力の結果として
＜シムを使わない優れた自動機＞を＜ここ熊本の八代＞で
設計～製作～据付まで一貫生産をしております。